

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム よしい川
日付	平成17年8月24日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会
	LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験11年
	評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年居宅支援事業所介護支援専門員経験5年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	認知症の人を、医療面からだけでなく、心理面や生理面等生活の中から出現する人間行動を客観的に分析して、認知症ケアについて考慮するという総合的な研究から、人間の「自立」と「尊厳」を基本理念として、施設長、管理者、と職員が共有している。 高齢者の新しい生活の地域づくり、認知症ケアの実践によって、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を目指していると思う。そのために、このグループホームを含めて、この広大な敷地にある施設や学問、研究施設が、どんな境遇の障害を背負っている人間にも安心できる世の中を目指している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	居室内はエアコン、空気清浄機が備え付けてあり、家族の方が泊まった時はもう一つベッドを用意している。広さは充分あり、落ち着いて生活が出来る。ご飯茶碗、箸、湯のみ茶碗は持ち込みで、常になじみの道具を使用することで安心感がある。 利用者と共にホーム入りした犬もこのホームの一員である。セラピー犬として活躍している。利用者も餌をあげたり、一緒に散歩をする。 外には畑もあり、野菜や花がいっぱい実っている。又広大な敷地も良い季節には、利用者にとって有り難い。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
利用者一人ひとりの持っている能力は種類も程度も異なるが、毎日の暮らしの中で、自分の出来る家事やホームの仕事の手伝いに参加したり、畑の草取りや収穫をして生き生きと暮らしている。「今まで草取りなんかしたことがなかったんだけど、今草取りが好きになった」と話していた。皆でする草取りが賑やかで楽しかったのでしょうか。流し台に、使った湯呑みがあるのに利用者が気付き、それを洗っていると、職員が「ありがとう」とねぎらいの言葉をかける。大勢で草取りをしたり、職員から優しい言葉をかけられたら嬉しいでしょう。
このグループホームの認知症ケアに対する考え方として、認知症の人の心理的、対人的、対社会的等の側面から見た原則を系統立て、その対応について実践しながら検証をきちっとしている。最初に利用者が行動している一例を書いたが、利用者と職員の関わり合いが、この考え方に基づいてケアされているのだろう。
施設長、管理者と職員で毎月認知症勉強会をしており、日頃の利用者の暮らしの中から利用者の行動を一つ一つ客観的に捉えて対応について皆で考えるようにしている。
このグループホームは、まだ設立して9ヶ月余りであるが、認知症ケアについて、具体的な事例をきっちりと取り上げて、出来るだけ客観的に考慮することにより、しっかりと基盤をつくっていきたいと考えている。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 研修生やバイトで若いパワーに接しているが、高齢者のボランティアにも来て頂いて、シルバーパーワーで又違った経験談や話題が聞けると嬉しいです。 客観的行動観察と同時に、個々の利用者の心を表わす言葉も記録にちょっと添えてあるのも、嬉しいかと思います。 法人自体町内会に加入できない事をお聞きしたのですが、地域との触れ合いも、又違った意味の経験の広がりを持てるのではないのでしょうか？ 地域の人に施設を開放されていますが、今後も西大寺地域を対象に認知症高齢者の生活の場づくりのリーダーシップを発揮して貰いたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「明日は何をしようかな?」というシートの取り組んでいる。明日は何が食べたい? 明日は何をしたい? 明日は何处へ誰と行きたい? 「利用者の今」をとても大切に思い、一人ひとりに出来る能力に応じて自分で出来るよう引き出してあげている。生活が安定してくると、生活の中での行動、買物、調理、後片付け等自分の役割を持たせてあげたいと考えている。 最初は色々な症状出現を背負いながら入所してきた利用者が、9ヶ月経過した今、最悪な状態から脱して、見違えるような人間を取り戻した人が落ち着いた生活をしている。そして、職員全員が利用者を深く理解して、一人ひとりの生き甲斐と自信をつけさせて生活して貰えるよう努力している事を感じた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	毎月施設長、管理者出席で認知症勉強会を開いて、利用者に「より良いサービスの提供」が出来るよう研鑽している。生活の中での行動を客観的に観察する目と行動に対する対話、関わりの研修が深くなっている。 認知症という病気を、医療の面だけで見るのではなく又身体的介護だけを考えるのではなく、生活の中で認知症の人の思いや気持ちを知り、察していきながら認知症の人一人一人の人間として、生活していけるよう尊重していこうとしている。 旭川荘という大きな法人の中で、高齢者が生き生きと暮らせる地域づくりや、一人ひとりがどのように生きていけるかというテーマで研究され実践されながら認知症ケアのあり方を提供されるよう更に期待していきたい。		